

定例市長記者会見録

日 時：6月25日(火) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、中部経済新聞

本日の案件は四つです。

1 番目は「地域 DX を推進するためのコンソーシアムが発足します！」についてです。

3月27日に一宮スマートシティ準備会議を開きましたが、次はいよいよデジタル田園都市国家構想を進める上で必須とされている産学官のコンソーシアムを発足させることになります。

大きな動きとしては、コンソーシアムの事務局・コーディネーターとして、コンサルティング会社の最大手であるアクセンチュアさんを採用することが決まりました。アクセンチュアさんは都市 OS の分野で最先端を走り、福島県会津若松市での実績も知られています。今回、中核市規模の一宮市で都市 OS について意欲的に取り組んでいただけるということで、すので楽しみにしています。

スマートシティという言葉がよく使われますが、私としては「スマホシティ」としてこの地域 DX を進めたいと考えています。医療などの間違いが許されないものは厳格な本人確認があるマイナンバーカードがいいと思いますが、その分セキュリティが厳しすぎる場所があります。このため、市民生活に普及しているスマートフォンで、使いやすく便利だと思ってもらえるようなものができればと考えています。例えば、今年度予算に計上している公共施設の予約で、小中学校の体育館の夜間や日曜日の開放に使おうと思っています。昔ながらの物理的な鍵で開けるのではなく、スマートロックという暗証番号で開け閉めするタイプに替え、予約した人はワнтаイムパスワードでその時間だけ有効な暗証番号が携帯電話やスマートフォンにショートメールで届くような仕組みができればいいなと思っています。

コンソーシアムの発足식을7月4日に開催いたします。新しいメンバーの中では、中部電力さんが電気メーターをスマート化しているということですので、例えば市の水道事業でのスマートメーターの導入など、検討する余地があり期待しています。

2 番目は「孫の誕生に合わせて取得できる「孫休暇」を導入」についてです。

お孫さんの誕生にあわせて取得できる孫休暇というものを7月1日から導入します。ここ10年以上、少子化と言われており、一宮市でもこれまでは合計特殊出生率が全国値を上回っていましたが、コロナ禍を契機に急激に落ち、2023年にはついに合計特殊出生率が1.15まで落ち込み、全国の1.20を下回る状況になっています。やることは多々考えられ

ますが、まずはやれることから始めようということで「孫休暇」を導入することとしました。今年から定年が従来の 60 歳から 61 歳まで延長となり、最終的には 65 歳まで定年の延長が決まっています。そういったシニア世代の方が、未来の宝であるお孫さんの育児に参加することで、子育ての負担を軽減することができればという狙いで導入します。

生まれてから 2 週間の間に 2 日間取得できる出産介護休暇と、生まれてから 1 年までの間に 5 日間取得できる出産養育休暇という制度がありますが、現在は、休暇の対象は父親だけです。これを父親だけでなく「祖父母」にまで拡大することで、お孫さんが生まれた際に育児に参加していただく環境を整える枠組みになります。

全国でも導入している自治体があり、県では宮城県と神奈川県、市では福島県郡山市、茨城県那珂市、岡山県岡山市、三重県桑名市が導入しており、愛知県内では初めてで中部地方の中核市でも初ということになります。

3 番目は「シン学校プロジェクト ～第 1 期応募結果～」についてです。

市内の小中学校の校舎は、築 50 年は当たり前で 60 年や 70 年というものもあります。建て替えを検討するところですが、単純に古くなったものから建て替えるというのではなく、学校のあり方をみんなで考えましょう、ということで皆さまからの提案を募集しました。4 月 25 日から募集を開始し、6 月 7 日に締め切り、その結果、市内小中学校 61 校のうち、小学校 15 校、中学校 9 校に関する応募がありました。個人からも 38 件の応募がありました。団体については、市内には 23 の連区という地域の単位があり、その連区ごとの地域づくり協議会などでいろいろ議論していただいたようで、15 の団体から応募がありました。内容としては「複合化」で学校だけではなく他の施設も学校に入れてほしいという提案が多く、公民館などコミュニティ施設を入れてほしいというものが 16 件、児童館が 11 件、児童クラブが同じく 11 件、保育園が 10 件という内容になっています。複数の意見もあるため、合計が合うものではありませんのでご了承ください。

小中一貫校の提案も小学校 5 校、中学校 3 校の計 8 校ありました。意欲的・先進的な取り組みにチャレンジしましょう、という声を上げていただいたことはありがたいと思います。ただ、第 1 期（2024－2034 年度）の 10 年間で 10 校程度を対象に建て替えたいとは思っていますが、中には学校の区域に係るものもあり、通学区域の線引きについては難しいという認識をしています。どこまで大胆なことができるかはつきりと申し上げられませんが、とはいえ地域で盛り上げていただいていますので、それを受けて頑張りたいなと思っています。

今後のスケジュールですが、来月 7 月中に対象校を 24 校から絞り込み、8 月上旬には公表する予定です。

4 番目は「市長の資産等の公開」についてです。

私の資産公開です。昨年選挙がありまして 2023 年 2 月 1 日から 3 期目ということで 2 月

1 日と 12 月 31 日の状況を公表させていただいています。

私からの説明は以上となります。

質疑応答

■地域 DX を推進するためのコンソーシアムが発足します！

(記者) 7 月 4 日に行うのは発足式だけで、会合などは予定していないのですか？

(職員) 当日、発足式の前に第 1 回の設立総会の開催を予定しています。

(記者) 今後のスケジュールやアプリの完成時期はどうなっていますか？

(市長) 月 1 回のペースで会議を行います。企業の皆さんのお知恵を借りながら進めていき、いろいろ議論ができればいいなと思っています。

(職員) アプリは、10 月のリリースを予定しています。その前には発表できるかなと思っています。

■孫の誕生に合わせて取得できる「孫休暇」を導入

(記者) 孫休暇は、育児休業とは別ですか？

(市長) 別の制度になります。育児休業と異なり、今回の特別休暇は有給休暇ですから、取得しても給料は減りません。

(記者) 現行の特別休暇を祖父母にあたる人も取れるようにするということですね？

(市長) そうです。生まれてから 2 週間以内は 2 日間、1 年以内は 5 日間の休暇を、今はお父さんだけが取れますが、おじいちゃんおばあちゃんにあたる職員も取れるようにします。

(記者) 実際に要望があったのでしょうか？

(市長) 他の自治体で実施しているニュースを見て導入を決めました。幹部の中ではこの制度を利用したかったというコメントがありました。

(記者) この制度の導入を機に、改めて一言お聞かせ下さい。

(市長) 一宮市は出生者数も減っていますが、その前段の婚姻届出数もコロナ禍に落ち込んだまま戻っていません。状況は厳しいかもしれませんが、あらゆる手段で子育ての負担部分を軽くして、できるだけ未来の希望に満ちた、子どもの笑顔が増える地域にしていきたいと期待しています。

(記者) お孫さんはどこに在住していても構わないのですか？

(市長) はい。限定していません。

(記者) 孫休暇の導入は、定年延長も背景にあるのでしょうか？

(市長) そうですね。定年が 65 歳まで延長することが決まっていますので、現役期間にお孫さんが生まれる職員が増えてくると思います。シニア層が育児に参加しやすい環

境を少しずつでも整えていけるよう、その先鞭をつけられたらいいなと思います。

(記者) 定年が 65 歳になるのはいつですか？

(職員) 2031 年度です。10 年間かけて段階的に 65 歳まで定年を延長していきます。

(記者) 何人くらいの方が孫休暇を取得すると見込んでいますか？

(市長) 先行自治体の実績を参考に、一宮市の職員数の規模から算出して、年間 70 人ぐらいの方がこの休暇を使って子育てに参加していただけるかなと思っています。

■その他

(記者) 銀座通商店街振興組合から駅前開発計画案への反対の意見書が出されたそうですが、なにが起きているのでしょうか？

(市長) 地元から声を上げていただいたことはありがたいと思っています。まちなかのにぎわい・中心市街地の活性化に取り組んできたわけですが、その地域に住む方たちの声を聴きながら進めていくことは、ごくごく当たり前のことと考えています。

(山田副市長) 銀座通りにいろいろなモニュメントや設備がありましたが、それらを撤去して空間を設けました。その道路空間を利用していろいろなイベントやキッチンカーの出店などの社会実験を実施しました。また、将来的にどういった空間にしたら良いかということで、デザイン懇談会を数回開催し、その結果を 4 月に開催したシンポジウムの中で有識者の皆さんがデザインしたものを、ウェブサイトにも素案として公表しています。これは、市が作成した案ではありませんが、ウェブサイトに素案を公表したことで、市がこのとおりに整備するのではとの誤解を招いてしまいました。今の段階では、専門家の方々が作った素案で、これを元に議論をしていきたいということで、各方面に意見交換や説明を担当課が行っているところです。

(記者) ラウンドアバウトをなくすという案が出ているのでしょうか？

(山田副市長) イベント広場のようなかたちで地下駐車場と一体的に使えるようにしたらどうかという案を見てラウンドアバウトが無くなるのではとの懸念を抱かれたのかもしれませんが。その辺りも含めて、近隣住民や使う側のご意見を聞きながら進めていきたいと思っています。まだスタートに立ったところですが、市の最終案という誤解を招いたことは、こちらの説明不足だったかなと反省しているところです。

(市長) いわゆる有識者や専門家の方が描いた絵であって、まだ市の計画ではありません。外部の知恵もいただきながら議論する中で、いろいろな意見を上げていただけたらいいなと思います。今回、地元の方の意見を受けて、不安や懸念や不満を解消できる折衷策があるのかも含め、これから話し合いを進めていけばいいと思っています。